

2017
年度

活動 報告書



2017年度を 振り返って

ちょうど10年前の2007年に組織の運営体制が大きく変わり、この先10年間となる2017年度までの長期事業計画を、当時の役員・スタッフ総出で話し合い、策定しました。その意味において、2017年度は一つの節目の年となりました。

その長期事業計画の重点項目の1つとして、「次世代の柱となる新規事業の研究と開発を行う」と目標を掲げました。この10年間、組織一丸となって育ててきた「エコロジーセンターRe☆創庫・Re☆ショップ事業」はその象徴的な存在の一つに当たります。残念ながら2号店の「Re☆創庫春日井」が2018年2月をもって閉店となりましたが、その経験も糧として、現場のスタッフ・市民リサイクラーの皆さんを中心に、着実に実績を積み重ねて前進をしています。

また2017年度は、資源リサイクルの大きな節目の年にもなりました。ここ数年、当たり前のようにリサイクルされてきたプラスチックや古紙資源ですが、中国政府の環境政策により中国へのリサイクル資源の輸入が制限されると、世界のリサイクル資源はあっという間に供給過剰になりました。アメリカでは一部の古紙が行き先を失い、ごみ化しているという話も聞きます。日本で分別されたリサイクル資源も、いまや国内市場だけでの循環には限界があり、使い切れない分を中国など東南アジアの国々へ輸出をすることで、何とか循環が保たれて来ましたが。

今回の中国の輸入規制によるリサイクル業界の混乱を目の当たりにして、環境に良いことをしたいという市民の思いだけ、あるいはごみを減らしたいという自治体の思いだけでは、リサイクルシステムの維持は難しいということを改めて感じました。我々市民はリサイクル中心のライフスタイルを見直すとともに、持続可能なリサイクルシステムの在り方について、今一度、市民・事業者・自治体で話し合う良い機会かもしれません。

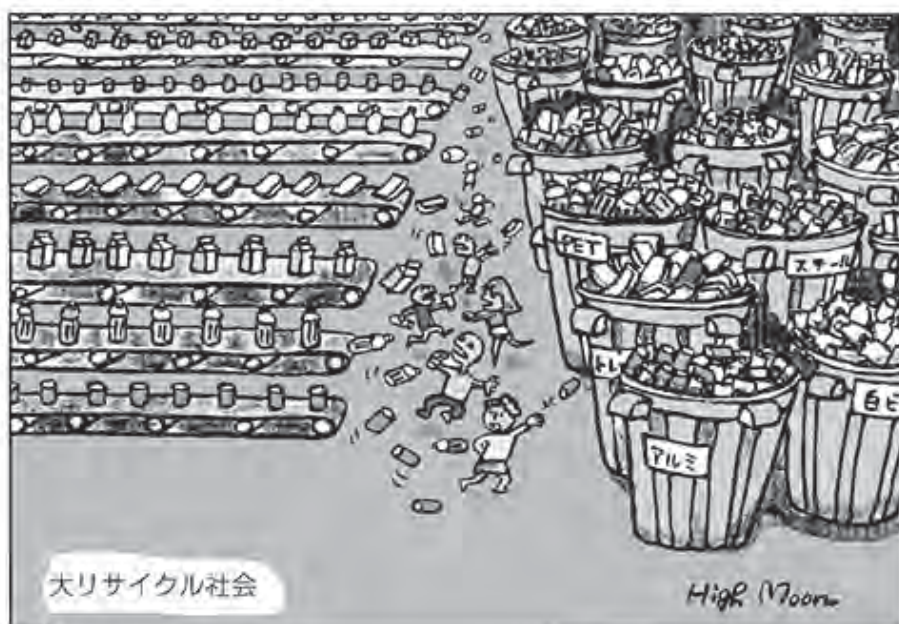
2017年度も、会員の皆さま、ならびに当会をご支援いただいている多くの皆様のご協力により、活動を継続することができました。最後にこの場をお借りして、心より御礼申し上げます。

代表理事 永田 秀和



2017年度 活動報告 CONTENTS

- ② 2017年度を振り返って
- ③ 2017年度トピックス
- ④ 活動報告-1
リユース&リサイクルシステムづくり
- ⑧ 活動報告-2
人づくり・環境教育
- ⑨ 活動報告-3
企業とのパートナーシップ
- ⑩ 活動報告-4
エコ商品の開発・普及
- ⑩ 活動報告-5
ネットワークによる活動
- ⑪ 情報発信・組織基盤強化
- ⑫ 会員情報



出典:ハイムーン氏著 漫画ゴミック「廃貴物」第4集

2017年度トピックス

リユース&リサイクルシステムの運営を基盤に、さらに幅広い社会貢献ができるよう、日々新しい活動に挑戦しています。

リユース品目の拡大

リユース事業のさらなる拡充と、利用者の皆さんのニーズにお応えするため、リユースの対象品目拡大を図りました。これまでの品目に加え、「アクセサリ」「インテリア雑貨」「CD・DVD」「おもちゃ」「園芸・DIY用品」「スポーツ・レジャー用品」「日用品」「文房具」を対象品目に加えました。

その結果、新しい品目のリユース品だけで約46,000点がリユースされ、年間の売上は約525万円となりました。市民のニーズに応え、ごみを減らし、組織全体の財政にも貢献する活動となりました。



新しい品目の日用品や文房具など(Re☆ショップよしの)



新しい品目が追加された折り込みチラシ

スタッフの採用

自前のトラックでの運搬業務を担う、ドライバーさん(短時間スタッフ)を3人と、次世代を担う若手正スタッフを一人採用しました。一般の中小企業でも人材確保が困難になっている昨今、非営利団体の採用はさらに難しい状況にあると実感しています。そんな中、貴重な人材を確保することができました。

今回採用した3名のドライバー(森山幸成さん、森山福義さん、永田年和さん)は60代~70代のトラック運転経験者ですので安心して業務をお願いすることができます。正スタッフとして採用した首藤愛さんは、環境問題を仕事にしたいとの想いを持った方で、2018年6月からの採用となりますが、一緒に仕事をするのが非常に楽しみです。

首藤 愛さん メッセージ

私の抱負は「中部リサイクルのファンを増やすと共に、社会問題(主に環境問題)に関心を持つ方を増やしたい」とことです。残念ながら私と同じまたは下の世代で、環境問題に関心がある人はほとんどいないように思います。

その理由として、自分自身にも関係する問題だと知る機会がないことだと考えます。そのため、皆さんの意見を伺ったうえで、例えばSNS・ブログ等を使って少しでも自分の問題として考える人を増やしていきたいです。



エコロジーセンターRe☆創庫春日井の閉店

エコロジーセンターRe☆創庫の2号店として、2011年10月に立ち上げたRe☆創庫春日井を、財政面の理由から2018年2月末に閉店しました。これまでの6年間、多くの利用者の方々にご利用いただき、また多くの市民リサイクラーさんに支えられて運営してこられたことに感謝しています。

閉店に伴い、多くの方々から閉店を惜しむ声が聞かれました。2010年に1号店を立ち上げてから閉店という初めての苦渋の決断となりましたが、運動としてのリユースの促進と、継続するめの収益性の確保という2つの側面の両立の難しさを改めて実感させられました。今回の経験を教訓として次の展開につなげたいと考えています。

大量生産・大量消費にNO! 誰もが日常的にリサイクル活動に参加できる場を運営しています。
新しいリユースの仕組みづくりにも積極的にチャレンジしています。

①リユース&リサイクルステーション

家庭から排出される12品目のリサイクル資源と7品目のリユース品(2018年6月からは12品目)を、スーパーマーケットなどの駐車場で定期的に回収するシステムです。「リサイクルステーション」としては1991年から継続実施しています。市民・企業・行政(名古屋市)・メディア・NPOがそれぞれの役割を担い、このシステムを支えています。2017年8月に「ホームセンターバロー名港店」が廃止となり、2018年5月現在、名古屋市内に37会場あります。

2017年度は、新聞・雑誌の生産量の減少と市中の古紙回収拠点の増加も影響し、リサイクル資源の回収量は1,424トン、前年度比17%減となりました。また、中国政府が



今年度購入したトヨタ・ハイエース。リユース品の運搬等に活躍中



たくさんの古着が集まる衣替えの時期のステーション

	2015年度	2016年度	2017年度
会場数	43会場	38会場	37会場
総回収量	2,047トン	1,723トン	1,424トン
延べ開催回数	1,366回	1,243回	1,163回
延べ持ち込み件数	119,200件	118,009件	106,225件
延べリユース受付件数	12,834件	12,527件	11,924件
※ 古紙リサイクル効果	32,720本の 木材節約	27,300の 木材節約	21,500の 木材節約

※「古紙リサイクル効果」は、リサイクルステーションで回収した古紙の量を木材に置き換えたものです。(古紙1トン≒木材20本)

環境対策の一環として、古紙の中でも異物の多い「ミックス古紙(雑誌・雑紙類)」の輸入を2017年12月末に全面禁止したため、雑誌・雑紙や段ボールの売却価格が下がり続けていることも財政面の懸念材料です。

そのような厳しい財政状況が続く中、2017年6月からリユース品目を拡大するという新しいチャレンジに取り組むことができました。今後も仕組みの改善に取り組み、市民の皆さんの「もったいない」という気持ちに答えられるステーションにしていきたいと思っています。

担当者の声

ここ数年、市民リサイクラーや資源回収事業者の皆さんと一緒に議論を重ねてきた「リユース品目の拡大」を成し遂げることができ、とても嬉しい一年でした。現場で、市民の皆さんが日用品や文房具などをお持ち込みいただく姿を見ると、とても報われた気持ちになります。来年もチャレンジを続けて、社会のニーズに応え続けたいです。
(副代表理事/和喜田 恵介)



担当者の声

オレゴン州に来た日本人少年が街なかで空き缶を探しますが、落ちていないんです。テレビドラマの1コマです。「デポジット」!?を知った瞬間でした。それは今、私が現場での楽しみの1つ、「Rマークびん」を見つけた時のうれしさにつながっています。

試行錯誤、いろいろありますが、運営協議会での「回収品目ふやし隊員」として、最先端の情報を1粒種になって利用者伝えていきたいと思い、ステーションに立っています。(市民リサイクラー/高原 志保子)



担当者の声

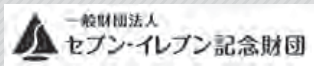
2017年6月からリユース品の受付品目が大幅に広がりました。どの会場へ行ってもリユース品担当(?)の私は箱詰めにも殺されることもしばしば…。「もったいない」の気持ちを善意に変えて寄付して下さる方々に、中部リサイクルを代表するつもりで「ありがとうございます」と、感謝の気持ちをお返ししています。
(市民リサイクラー/杉山 予理子)



●以下の企業の皆さまから協賛金をいただきました。(五十音順)



●以下の団体から助成金をいただきました。(五十音順)

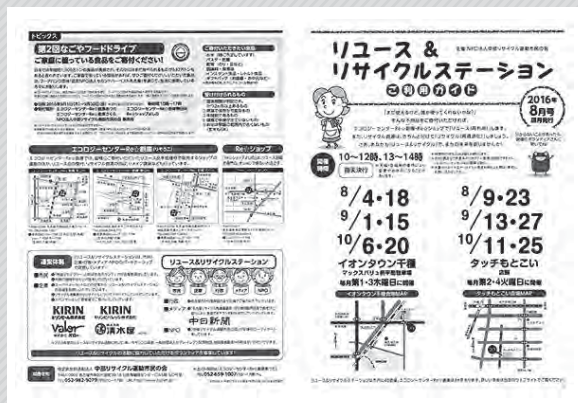


●新聞折込チラシ・新聞・フリーペーパーで開催告知協力を
していただきました。

名古屋市内の中日新聞販売店などで構成されている「名古屋リサイクル推進協議会」には折込チラシ「リユース&リサイクルステーションご利用ガイド」の作成と配布(偶数月/各回25万部)を、「中日新聞」「環境情報誌Risa」には紙面での告知協力をしていただきました。

●多くの皆さまに支えていただきました。

雨の日も風の日も、現場を運営していただいている市民リサイクラーの皆さま(登録者数100名)や会場提供事業者の皆さま、事業協力金や広報で協力していただいた名古屋市など、さまざまな方々にステーションを支えていただきました。



進化するリユース&リサイクルステーション

障がいのある方々による古着仕分け活動

2015年度から、リユース&リサイクルステーションで回収したリサイクル資源「古着・古布」を仕分けて、リユース可能なものを抜き出す作業を「社会福祉法人親愛の里」に委託しています。

これにより、リユースの促進と障がいのある方々の活躍の機会の提供を目指しています。2017年度は、延べ約300人の方々に活動していただき、約13,000枚の衣類をリユースに回すことができました。



Re☆創庫あつたでの仕分け作業の様子

市民リサイクラーの育成

リユース&リサイクルの現場で、利用者とコミュニケーションを図り、3R中心のライフスタイルを広げていく役割を担っている市民リサイクラー(ボランティア)の皆さん。さらに、それぞれの現場の意見を交換し、さらにスキルアップをするために、以下のような活動を行いました。

●市民リサイクラー全体会

(2017年4月23日開催、参加者50名)

2016年度の活動実績と2017年度の事業計画を共有した後、2017年6月から受付を開始する新しいリユース品目の受付方法等について意見交換を行いました。グループワークでは、リユース&リサイクルステーションで活動する市民リサイクラーと、Re☆創庫やRe☆ショップで活動する市民リサイクラーが疑問や意見をカードに書いて出し合い、連携を一層深めました。



拠点間の連携を深めるグループワーク

●市民リサイクラー見学会

(2017年11月29日開催、参加者39名)

午前中に(株)石川マテリアルの「緑リサイクルセンター」で、びん・缶・PETボトルのリサイクルの様子を見学した後、午後は、同じく(株)石川マテリアルの「東郷センター」で金属類のリサイクル施設を見学しました。普段集めている金属類が巨大なギロチンで裁断される様子は壮観でした。その後、日進市が運営する常設の不用品・資源ごみ回収拠点「エコドーム」も見学しました。



金属の裁断機(通称ギロチン)を見学

② エコロジーセンターRe☆創庫 あつた

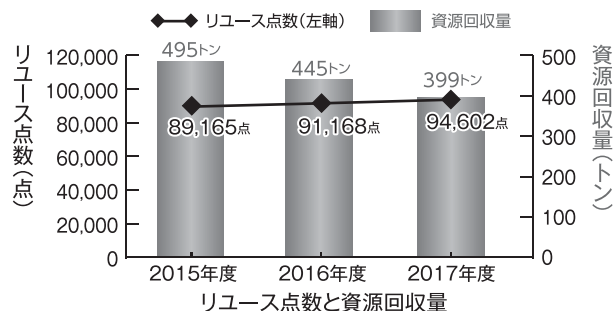
2010年6月オープンのRe☆創庫1号店です。2017年度の施設利用者数は26,018人、リユース点数94,602点、リユース品売上約1,520万円、資源回収量約399トンとなりました。2017年度は、2名のサブマネージャー、1名のRe☆創庫スタッフ、7名の市民リサイクラー(リーダー)、約10名の市民リサイクラー(サポーター)で運営しました。

Re☆創庫あつたには多くの方が視察や環境教育のために訪れます。例えば2017年8月の一か月を例にとると、イオンチアーズクラブの子どもたち、東北大学の学生さん、また中米からJICAの研修生の皆さんと、世代や地域を超えて多くの方が熱心に見学に来てくださいました。



イオンチアーズクラブの皆さん

そんな中、運営メンバーは、毎日の業務や作業なども精いっぱいこなしています。特にお客様からの電話の対応や接客には、「また来たい」と思っていただけるように、第一印象を大切にすることを心掛けています。



担当者の声

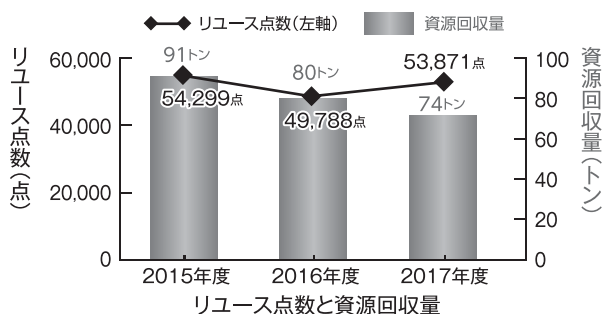
最近、目に見えて男性客や子どもさんが増えていきます。リユース品の拡大見直しにより、商品の幅が広がったからと思われます。おもちゃや、男性向き日用品が良く売れていますが、紳士衣料の入荷が極端に減り、欲しいという方の需要に間に合わない状況です。開店以来8年ほど経ちましたので、リニューアル等により、新鮮な店づくりを考えたいと思います。
(Re☆創庫 あつた サブマネージャー/関口 利明)



③ エコロジーセンターRe☆創庫 春日井

2011年10月オープンのRe☆創庫2号店です。2017年度の施設利用者数は16,986人、リユース点数53,871点、リユース品売上約720万円、資源回収量は約74トンでした。2017年度は、マネージャー1名、サブマネージャー2名、市民リサイクラー(リーダー)3名、約12名の市民リサイクラー(サポーター)で運営しました。

10月には6周年祭を開催し、利用者の方に折り紙をお願いした「折り紙アート」を皆さんと作りました。定例のものづくり教室も毎月開催し、地域のリユース&リサイクルと交流の窓口となってきましたが、経営や諸々の事情により、2018年2月25日をもって閉店しました。長い間Re☆創庫 春日井を支えてくださった皆さま、本当にありがとうございました!



地域の皆さんと歩んだ6年
～思い出にありがとう!～



オープン日_2011



コンサートと絵本の読み聞かせ_2014



周年祭で賑わう店内_2015

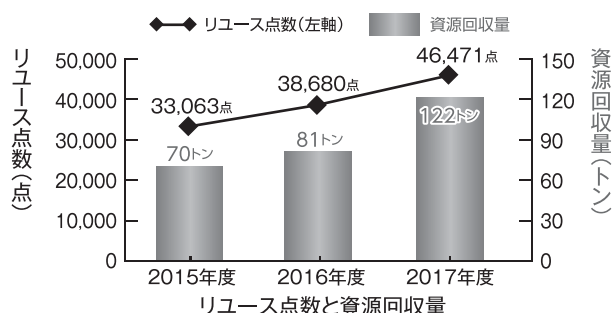


ものづくり教室_2016

④エコロジーセンターRe☆創庫 さくら

2014年4月に、障がい者支援に取り組む「社会福祉法人 親愛の里」との連携により名古屋市南区にオープンしました。2017年度の施設利用者数は11,962人、リユース点数46,471点、リユース品売上約920万円、資源回収量約122トンとなりました。2017年度はマネージャー1名、3名の市民リサイクラー(リーダー)、7名の市民リサイクラー(サポーター)で運営しました。

Re☆創庫さくらは今年で4年目。周年祭を行った4月には初の月間売上100万円を達成し、どんな小さなリユース品も無駄にしないように、10円から値付けをしてお店に並べています。



毎月6につく日の「くるくるデー」は準備が大変ですが、1日で平均8万円の売上があり、継続的・安定的な運営のために貢献してくれていて、年

3回の抽選会もお客様には好評です。これからも皆さんが楽しく集える場として、Re☆創庫さくらが成長していけるよう日々努力していきます。



●●●●●●●●●●

担当者の声

お客さんとのやりとりは、時には友達のように、時には姉妹のように、時には親子のように楽しんでいます。家庭的な雰囲気の店内では、お客さん同士もお友達になって、笑顔があふれます。店内のみならず、作業スペースでも笑い声が響く。この雰囲気をこれからも大切にしていきたいと思っています。

(Re☆創庫 さくら マネージャー/浅井 久美)



⑤Re☆ショップ よしの

2014年10月に名古屋市東区にオープンしました。資源回収は行わず、リユースの寄付品の販売と受付のみを行う、ショップ型の施設です。

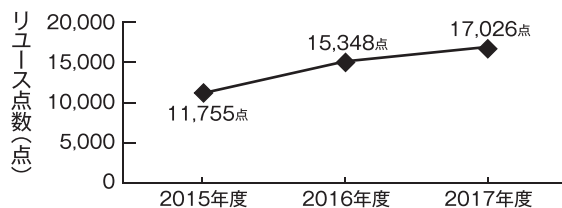
2017年度の施設利用者数は5,764人、リユース点数17,026点、リユース品売上約360万円となりました。2017年度は、サブマネージャー2名、1名の市民リサイクラー(リーダー)、2名の市民リサイクラー(サポーター)で運営しましたが、資源回収のない街中のショップにとっての、最適な運営方法を新たに試みるため、2018年2月より市民リサイクラーが主体となって運営する体制にシフトしました。

2017年10月に3周年感謝祭を開催しました。タイムセール、目玉商品の販売や、はずれなしの



新メンバー加入でパワーアップ!

抽選会。以前好評だった果物も販売し、今回も大好評でした。初売りでは、ジャンボさいころ運試し。出た目により割引くので、年の始めにめでたい!と喜んでいただきました。



担当者の声

春は恒例のリユースキャンペーンを実施し、3月には「和はぎれ」の詰め放題をしました。5月・6月には初夏のさわやかフェアの第一弾、第二弾を企画。フレッシュなメンバーを迎えて、これからも楽しいイベントを続々と計画していきます。

(Re☆ショップよしの 市民リサイクラー/小林 もと子)



Re☆創庫・Re☆ショップでのフードドライブ

「フードドライブ」とは、家庭で余っている食べ物を持ち寄り、フードバンク団体や福祉団体に寄付する活動です。2017年度は9月と2月に、Re☆創庫・Re☆ショップでフードドライブ活動を行い、約200kgの食品を「認定NPO法人セカンドハーベスト名古屋」に届けました。お届けした食品は、生活困窮者向けの食品の詰合せ等に活用されました。



フードドライブで集まった食品

次代を担う「人」を増やすため、環境学習プログラムの企画・運営、小中学校での出前授業、講師派遣などを行っています。

①JICA研修「総合的な廃棄物管理」

JICA研修「総合的な廃棄物管理」を企画・運営しました。期間は1月12日から2月23日までの約40日間で、アフガニスタン、ブータン、カンボジア、フィジー、ミャンマー、パプアニューギニア、東チモール、ベトナムの8カ国から13名の研修員が参加。研修員は政府や州、市町村などでごみ処理を担当している行政職員です。

初めに日本のごみ処理の歴史や法律について座学で学んでもらった後、名古屋市の鳴海工場、大江破碎工場、最終処分場、さまざまな素材のリサイクル工場などを訪れ、日本のごみ処理や

リサイクルについて見学していただきました。また、産業廃棄物の不法投棄事件などの日本のごみ処理の負の歴史についても情報提供しました。

研修員たちは当会監事の村田元夫さん(株式会社ピー・エス・サポート)の指導のもと、帰国後のアクションプランを作成。売却できる資源ごみを集団回収方式で集めるプランや、焼却炉の熱を地域暖房に活用する壮大なプランなどが発表されました。



日曜日の朝の集団資源回収を見学
(豊明市勸使台にて)



アクションプランの作り方を学ぶ研修員



修了証書を手に記念撮影。40日間お疲れ様でした!

研修生の声

この研修で一番有益な知識は、日本のごみ分別の手法でした。この方法は実用的にも理論的にも驚くべきものでした。私は日本のごみ処理の技術や仕組みを参考にして、自分が勤める自治体にごみ分別の提案書を書くつもりです。日本の手法は私たちの自治体だけでなく、私たちの国全体が抱えているごみ問題の解決につながるものだと確信しています。(ラロさん／パプアニューギニア国レイ市)



②環境教育チームの活動

今年度も、恒例の桜小学校(名古屋市南区)と、熱田神宮の緑陰教室で、紙すきと紙のリサイクルの講義をしました。また、2017年の11月には一宮市、12月には愛知県が主催の環境学習講座でも、親子を対象にした講座を実施しました。

親子で協力をして、牛乳パックを使った紙すきをして、手作りのはがきを見せ合う光景は微笑ましく、家に帰った後も親子の会話が増えたのではないのでしょうか?親子講座の意義も感じる事ができた一年でした。



親子で仲良く紙すき体験

社会に対してより大きな影響を持つ活動をするために、企業とNPOがお互いの特徴を生かして協働するパートナーシップ事業を展開しています。

① 記念日植樹券プレゼント事業

2001年から継続している中部電力(株)との協働事業。この協働関係は、この地域のエネルギー問題について、中部電力(株)と協議ができる関係づくりを進める中で生まれたものです。

この事業の目的は、自分の手で木を植える体験や、NPOの植樹活動に植樹券を寄付することを通じて、環境問題への気づきや環境行動を広げることです。これまで16年間で、6万4千人を超える方々と13団体のNPOとともに、43万本

以上の苗木を国内外に植樹してきました。

17年目の2017年度事業では、1,000名の皆さまに「植樹券(苗木を植ええられる権利)」をプレゼント。下図のような3つのメニューから、植樹券の使い道を選んでいただきました。

2018年6月23日(日)には、メニュー③を選んだ方を対象に、NPO法人時ノ寿の森クラブの植樹活動に参加するツアーを開催する予定です。

当選者が選んだ植樹券の使い道

メニュー①

自分で植える、または大切な人に苗木をプレゼント(793件)



メニュー①を選ばれた当選者

メニュー②

「被災地で植樹する3団体」に植樹券を寄付(147件)



桜の苗木を準備する岩手県陸前高田市の「桜ライン311」のスタッフ

メニュー③

「時ノ寿の森クラブ」に植樹券を寄付(60件)



時ノ寿の森クラブに植樹券を寄付する当選者



2017年度事業のパンフレット

② 中部電力ECOポイント活動「三滝川で生き物を見つけよう!」

2017年8月5日(土)に三重県四日市市で、自然体験イベント「三滝川で生き物を見つけよう!」を開催しました。このイベントは、「中部電力グループECOポイント活動」、「魚と子どものネットワーク」との協働で開催しました。

前回に引き続き、レッドデータブックに登録されている珍しいカワアナゴが獲れたほか、オイカワ、ギンブナ、タモロコ、モツゴ、ゴクラクハゼ、モズガニ、テナガエビなど、普段なかなか見ることができない生き物たちに出会うことができました。



ひざまで川に浸かってゴソゴソ。都会ではできない体験



魚と子どものネットワークの方からの解説。大人も興味津

天然素材を生かした衣料品、石けん製品、生ごみ発酵堆肥化ツールなど、環境に配慮した商品の開発・普及を行っています。

①通信販売『ぐりーんめいる』

できる限り薬品の使用を抑え天然素材の良さを生かした衣料品、天然油脂を原料とした石けん製品等を通信販売しています。

②生ごみ堆肥化ツール

家庭で出た生ごみを手軽に発酵できる発酵堆肥化促進剤と密閉容器を販売しています。



お互いの活動を広め、深め合うために、さまざまなNPOや団体と連携するほか、NPO共同事務所の運営を行っています。

①日本チャリティーショップ・ネットワーク

市民から寄付されたまだ使えるリユース品をボランティア等の協力を得て販売し、その利益を非営利の社会貢献活動に活用する、チャリティーショップ(以下C.S.)のネットワーク形成事業を、2013年度より地球環境基金を活用して実施しています。中部リサイクルもC.S.運営団体として参加しており、2016年度までこのネットワークの事務局を担いました。



アクセサリリメイクの分科会

2018年1月27日に、「チャリティーショップフォーラム」が開催され、70名以上が参加してショップ運営のノウハウを学び、情報交換をしました。午前の基調講演の後、午後は分科会に分かれ、ディスプレイやリメイク、C.S.の機能について学びを深め、最後に開催されたアワードでは、ボランティア、寄付品、ディスプレイ、イベントの4つの部門でグランプリが表彰され、盛り上がりしました。



アワードでの表彰のようす

②非営利団体とのネットワーク

障がいのある方たちや生活困窮者への支援、被災地の支援など、環境以外の分野に取り組む非営利団体とのネットワークづくりにも取り組んでいます。

2018年2月25日に、「地域活動支援センタークオーレ」「セカンドハーベスト名古屋」「レスキューストックヤード」との協働で、「炊き出し体験イベント」を実施しました。けんちん汁の炊き出し、非常食の試食、ゲームをしながら防災について学べるコーナーなど、参加した70名の皆さんと楽しみながら地域の防災について考えました。



非常食を試食しながら交流する地域の皆さん

③NPO共同事務所の運営

2004年よりNPOなどに事務所スペースを提供してきました。2013年に現住所へ移転する際もビルを管理する「一般財団法人日本陶磁器連盟」様のご厚意により他団体への事務所スペース提供を認めていただき、2017年度も継続することができました。



作業場を兼ねたミーティングスペース

入居団体(五十音順)

- ・公益財団法人 あいちコミュニティ財団
- ・NPO法人 エコデザイン市民社会フォーラム
- ・コミュニティ・ユース・バンクmomo
- ・NPO法人 地域の未来・支援センター
- ・NPO法人 中部リサイクル運動市民の会



事務機器も共有しています!

活動報告

情報発信・組織基盤強化

①情報発信

ニューズレター「エコロビト」、公式ウェブサイト(<http://www.es-net.jp>)を発行・運営しました。また、会員の皆様には事務局より随時メールにて情報をお届けしています。

2017年度はウェブサイトのリニューアルのさらなる充実に取り組みました。



新しいウェブサイトの画面

②組織基盤強化

認定NPO法人の取得に取り組んだ結果、2018年3月22日付けで名古屋市から「指定特定非営利活動法人」の指定を受けました。この後、5月9日付けで「認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)」として認定されました。

認定NPO法人とは、NPO法人のうち「一定の基準を満たしている」と所轄庁(都道府県・政令市)が認めた法人のことで、より高い税制優遇を適用されます。

例えば、個人が認定NPO法人へ寄付をした場合は確定申告をすると、税金の還付を受けることができます。法人が認定NPO法人に寄付した場合は、一般のNPO法人への寄付と比べ、経費として扱える寄付金の限度額が高くなるほか、認定NPO法人自身の法人税も、「みなし寄付金制度※」を利用することで軽減されます。

今後は認定NPO法人として、NPO法人よりも一層公益性のある団体であることが求められます。

※認定NPO法人が、収益事業から得た利益を本来目的の非収益事業に使用した場合、この分を寄付金と見なし、一定の範囲で損金に算入できるという制度

担当者の声

2017年度は認定NPO法人の取得準備や、採用活動にも新たに関わることができ、学びの多い1年になりました。2018年度は、認定NPO法人としてより公正な事務作業を心掛けるとともに、人材育成に力を注いで行きたいと思っています。(事務局次長/庄司里美)



2017年度末時点

会員の皆さまへ

中部リサイクルを支援していただき
誠にありがとうございます。

会員種類		人数	会員種類	団体数
個人	正会員	33名	団体	11団体
	賛助会員	96名		8団体
	学生	0名		
		合計	148名・団体	

誰でも利用できる

常設 リユース&リサイクル
ステーション!

エコロジーセンター
Re☆創庫

「エコロジーセンターRe☆創庫」では、常設の資源回収拠点と、寄付していただいたリユース品を販売する「Re☆ショップ」を運営しています。

皆さまお気軽にお越しください!

エコロジーセンター Re☆創庫あつた

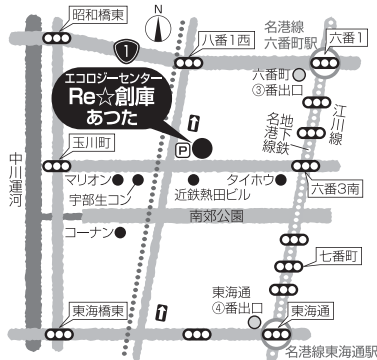
〒456-0059
名古屋市熱田区八番2-19-16
TEL 052-659-1007
FAX 052-364-7200

●資源回収

営業時間 午前10時～午後5時
定休日 火曜日・水曜日

●Re☆ショップ

営業時間 午前10時30分～午後5時
定休日 火曜日・水曜日



エコロジーセンター Re☆創庫さくら

〒457-0039
名古屋市南区西桜町31-1
地域活動支援センタークオーレ内
TEL 080-2651-9843
FAX 052-883-9259

●資源回収 ●Re☆ショップ

営業時間 午前10時～午後5時
定休日 日曜日・月曜日・祝日



寄付品の受付と販売

あなたのいらなくなったもので
気軽にチャリティー!

リユース&チャリティー
Re☆ショップ

「Re☆ショップ」は、リユース品販売が専門の、
オシャレで明るいお店です。

ぜひ一度お越しください!

Re☆ショップ よしの

〒461-0027
名古屋市東区芳野3-13-2 後藤ビル1F
TEL・FAX 052-508-9243
営業時間 午前10時～午後5時 定休日 日曜日・月曜日・祝日



会員になって活動を支援してください!

会員特典

- 1.会報を定期的にお届けします。
- 2.主催イベントに割引価格で参加できます。(正会員のみ)
- 3.「ぐりーんめいる」商品を10%引きで購入できます。(正会員のみ)

入会ご希望の方はこちらまで

正会員 (議決権あり)	個人	→ 10,000円
	団体	→ 20,000円
賛助会員 (議決権なし)	個人	→ 3,000円
	学生	→ 2,000円
	団体	→ 10,000円

認定特定非営利活動法人 中部リサイクル運動市民の会

お問い合わせ / 〒461-0002 名古屋市東区代官町39-18 日本陶磁器センタービル5F TEL.052-982-9079 FAX.052-982-9089

メール staff@es-net.jp ホームページ http://www.es-net.jp

事務局へのアクセス

